

# 掘りday はちのへ

—八戸市埋蔵文化財ニュース第15号—



八戸城外堀の一部

はちのへじょうそとぼり

八戸城外堀の一部を検出

はちのへじょうあと

～八戸城跡～

八戸城跡は、八戸市内丸に位置する江戸時代の城跡を中心とする遺跡です。平成23年度の調査で、八戸城外堀の一部を検出しました。検出した堀の幅は2.5m、長さ7.5mで、東西方向にのびています。石垣をもたない素掘りの堀とみられ、深さは現在の道路から2.7m以上に及びます。堀は調査区の外にのびているため、堀の底は確認できませんでした。堀の南西端はL字状に南に張りだしており、絵図に描かれた堀の形と一致しています。（次頁につづく）



八戸城圖（明治4年9月）八戸市博物館蔵



## 江戸文化を伝える土製玩具が出土

八戸城は、現在の三八城神社・三八城公園・八戸市公会堂にあたる本丸と、八戸市庁・南部会館・轟神社等が位置する二の丸から構成されています。寛文4年(1664)に八戸藩が成立した際に、藩主の居城・藩庁と定められ、明治4年(1871)の廃藩置県によって廃城となり、本丸内の建物は取り壊されました。八戸城をめぐる堀も、宅地化によって現在はすべて埋められています。

平成23年度は、アパート建築に先立って二の丸南東の地点を調査し、江戸時代以降の柱穴・竪穴建物・堀跡がみつかりました。江戸時代～明治年間の絵図と比較した結果、今回の調査区は八戸城東門付近の堀・屋敷地にあたります。

柱穴や竪穴建物は、堀跡の南側でみつかりました。堀南側は八戸藩上級武士の屋敷地で、検出された遺構は屋敷の一部と考えられます。2棟検出した竪穴建物の1棟は、南北4m×東西2.5m以上の方形の遺構で、深さ約1mの地下室(ちかむろ)と考えられます。埋め土の最上層から、破損した陶磁器・貝・魚の骨などが出土しており、最後はゴミ穴として埋められたようです。

地下室上層に捨てられたゴミの中から、土人形・鳩笛やままごと道具などの土製玩具が



地下室(ちかむろ)



花巻人形(右:出土遺物 左:花巻市博物館所蔵)



ままごと道具

出土しました。八戸市近郊には土製玩具の産地がなく、出土も稀です。今回出土した土人形のうち、形がわかるものは4点で、うち1点は江戸でつくられた赤褐色の「大黒天」です。他の3点は岩手県花巻市で製作された花巻人形で、伝世品で類似する人形が花巻市博物館に所蔵されています。

ままごと道具は、ミニチュアの碗や小杯・土鍋・土瓶・鉢があり、土製のもの以外に磁器・陶器のものも出土しました。

八戸藩上級武士の江戸での買い物については、日記類の解読から、衣類や食料品等さまざまな品物が江戸で購入され、国元へ送られていたことが指摘されています。今回出土した土製玩具も、八戸以外で購入された可能性が考えられ、当時の上級武士層の生活が伺える貴重な資料の一つです。(船場 昌子)

# たしろ 田代遺跡 ～ 複式炉をもつ堅穴住居跡～

田代遺跡は、八戸市南郷区にある縄文時代中期末～後期初頭を中心とする遺跡です。平成16・17・21年度に、青森県埋蔵文化財調査センターによって行われた発掘調査で集落の様相が明らかになりました。

今回の調査では、標高215～220mの南西向きの緩やかな斜面に縄文時代の堅穴住居跡2棟と土坑8基がみつかりました。

堅穴住居跡は、縄文時代中期末～後期初頭のものです。堅穴住居跡は2棟みつかり、どちらの住居跡にも「複式炉」とよばれる炉があります。複式炉とは、火を焚く部分が複数ある炉のことをいいます。今回の調査では、周囲を石で囲った炉（石囲炉）と掘り込み部（前庭部）の2つの構造をもつものと、土器を埋めた部分（土器埋設部）・石を組んだ部分（石組部）・掘り込み部の3つの構造をもつものがみつかりました。この複式炉は、縄文時代中期の終わり頃に限定してみられ、東北地方や北陸地方の堅穴住居でさかんに造られていたようです。気候の冷涼化により採集できる木の実が変わり、それに伴い調理法が変化したことが、複式炉の誕生につながったのではないかという説もありますが、詳細は明らかになっていません。また、調査が進むにつれ、地域によって様々な形・組み合わせがあることが分かってきました。田代遺跡でみつかりしている石囲炉と前庭部をもつ炉



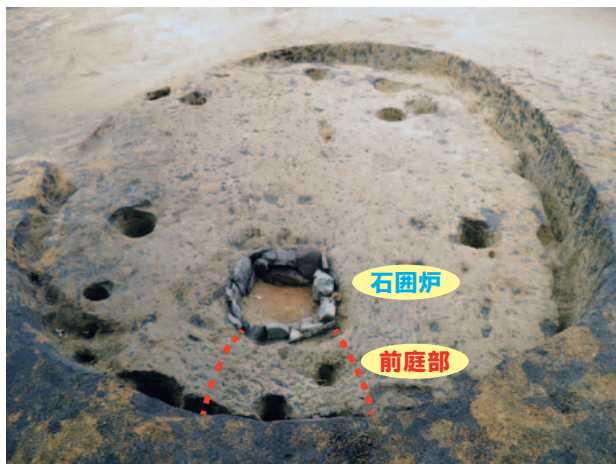
平成23年度 田代遺跡調査区

は、火を焚く部分が1つしかありませんが、2つの部分から構成されているため、複式炉の一形態と考えられています。用途にも様々な説があり、土器埋設部はトチの実などのアク抜きに用いる灰の保存・火を絶やさないう火種を保存する場所、石組部は調理・暖房・照明・アク抜き用の灰をとる場所、前庭部は焚口や作業場、出入り口などと考えられています。

土坑は8基みつかりました。断面がフラスコのような形をしているものがあり、食料を保存するための貯蔵穴として使用されたと考えられています。底面の四隅に小さい穴がある土坑や、炭化材や土器が埋まっていた土坑もありました。

24年度も引き続き調査を行います。まだまだ集落が広がっていくことが予想されます。

(田中 美穂)



石囲炉・前庭部をもつ複式炉



土器埋設部・石組部・前庭部をもつ複式炉

田面木遺跡は八戸市田面木地区に所在する遺跡で、これまでに計 41 地点の発掘調査が実施されています。本遺跡からは縄文時代、飛鳥・奈良・平安時代の遺構・遺物が発見されていますが、特に飛鳥～平安時代の竪穴住居跡が 60 棟近く検出されており、古代の大集落であることが明らかになっています。

今年度に調査を実施した第 37 地点は遺跡の南西に位置し、飛鳥～奈良時代の竪穴住居跡 7 棟や掘立柱建物跡 2 棟、墓あるいは祭祀施設と推定される円形周溝 2 基などが検出され、古代集落の一部が確認されました。

中でも注目される成果として、竪穴住居跡の 1 つから青森県内初となる関東系土師器坏が完全な形で出土したことが挙げられます。坏は食べ物を盛る椀形の器です。

関東系土師器とは、関東地方の土師器の特徴をもつ、東北地方において出土する土器のことで、特に宮城県北部で多く出土することが知られています。今回出土した関東系土師器坏は、丸底で口の先が軽く外反しながら立ち上がり、器面調整として口の外面にヨコナデ、体部外面にヘラケズリ、内面にはヨコナデが施されています。また、東北地方の土師器に特徴的な内面黒色処理は行なわれておらず、内外面ともに橙色です。さらに地元の土師器坏の胎土に含まれることが多い「海綿骨針」(微細な白色の針状物質)は認められません。これらのことから、明らかに地元の土師器坏とは器形、調整、胎土が異なっており、当地域において外来的な土器と認めることができます。

この関東系土師器が出土した竪穴住居は火災による焼失住居であり、カマド周辺に地元の土師器甕が並べられ、火災によって生じた炭化材と焼土の上から、口を上に向けた状態で関東系土師器坏が出土しました。関東系土師器坏には焼土の熱による二次的な被熱が確認されていることから、土器は火災後に時間を空けずに焼土の上に置かれたことがわかります。これらは竪穴住居を廃棄する際の儀礼的な行為であったと推定されます。

今回出土した関東系土師器坏については、田面木集落の人たちがまねてつくったものであるのか、他地域からこの集落に移り住んだ人たちがつくったものであるのか、土器のみが他地域からもたらされたものであるのかは、残念ながらよくわかりません。ただし、関東系土師器が出土した竪穴住居跡では、屋外にのびる煙道がみられないこと、カマドを白色の粘土でつくっていることなど、他の一般的な住居とは異なった様子がみられるので、特別な生活様式を持った人々が居住していたのかもしれませんが。

(杉山 陽亮)



関東系土師器が出土した飛鳥時代の竪穴住居跡



関東系土師器 坏



関東系土師器出土状況

坂中遺跡は八戸市南東部に位置し、八戸市の中心部から南東へ約4kmの地点に所在します。遺跡は新井田川支流の松館川右岸に形成された、標高約50mの南西方向に傾斜する段丘上に立地します。遺跡の南側には、飛鳥時代から平安時代の集落が発見されている市子林遺跡が隣接しています。

調査は平成23年8月25日から10月5日に行われ、平安時代の竪穴住居跡4棟(SI6～9)がみつかりました。このうちSI6・7とSI8・9では、住居が使われた時期が違っています。その理由として、カマドがSI6・7では東壁、SI8・9では北壁に付いています。また、SI6・7とSI8・9で出土した土師器の坏や甕を比べると、SI8・9のほうが古い時期の特徴をもち、SI6・7はSI8・9より若干新しい時期の住居であることがわかりました。SI8・9の土器を他遺跡のものと比べてみると、10世紀初頭から前葉に位置付けられます。

SI8の堆積土には白頭山ー苦小牧火山灰(10世紀前半降下)、SI9には白頭山ー苦小牧火山灰とこれより少し前に降下した十和田a火山灰(10世紀初頭降下)がみられ、遺物と火山灰の年代が一致しています。坂中遺跡は、南に隣接する市子林遺跡の集落に後続する10世紀の集落であることがわかり、今後、集落の変遷を明らかにしていきたいと思えます。

(横山 寛剛)



SI6 竪穴住居跡の完掘状況

## 是川遺跡の研究者たち ①石田収蔵

是川遺跡の発掘調査と言えば、泉山兄弟が有名ですが、彼らより数年も前には是川を調査した人物がいます。それは石田収蔵という人類学者です。

彼は、明治12年、秋田県鹿角市に生まれ、父の死後、弟の多吉(旅館石田家)を頼りに一家を挙げて八戸へ移り住みました。八戸中学から初めて東京帝国大学に入学した人でもあり、師には同じ人類学者の坪井正五郎がいます。明治39年、東京人類学会編集員となり、このころ七戸でアオモリゾウの化石を発見しています。

大正2年、人夫3人を使い是川遺跡(中居)の調査を3日間行っていますが、土器や石器は出土しなかったようです。11年にも調査が行われ、調査図面は残されていますが、残念なことに報告はされていません。また、樺太先住民の研究

者でもあり、それらの原稿については人類学雑誌に掲載されています。

研究当初は、精力的に数々の原稿を執筆していたようですが、大正7年から亡くなる昭和15年まではほとんど何も書かず、調査を行った膨大な資料が残されたままとなっています。現在、それらは板橋区立郷土資料館に保管されています。大正14年から昭和15年まで東京農業大学図書館長を勤め、定年後にまとめて論文を出そうと考えていたのかも知れませんが、未刊のまま亡くなりました。調査研究の功績はすごかったのですが、論文を発表していないことから、「謎の人類学者」とも呼ばれています。

(村木 淳)



## 「史跡是川石器時代遺跡発掘調査報告書」刊行

史跡是川石器時代遺跡の報告書を刊行しました。これまで中居遺跡、一王寺(1)遺跡、堀田遺跡それぞれについての報告書はありましたが、史跡全体を対象とした報告書は初めてのものです。構成や内容は、平成22・23年度の是川遺跡調査指導委員会(委員長 岡村道雄氏)で検討されたことをふまえ、三遺跡の主要な成果を整理し、あらたに総括の部分を加えています。

総括は、史跡是川石器時代遺跡の特徴を遺跡の変遷や新井田川流域の縄文遺跡群との時期的な関係を通して示すよう努め、今後の調査や遺跡保護の課題等にもふれた内容となっています。史跡是川石器時代遺跡の基本資料

として、研究者をはじめ多くの人に活用されることが期待されます。(宇部 則保)



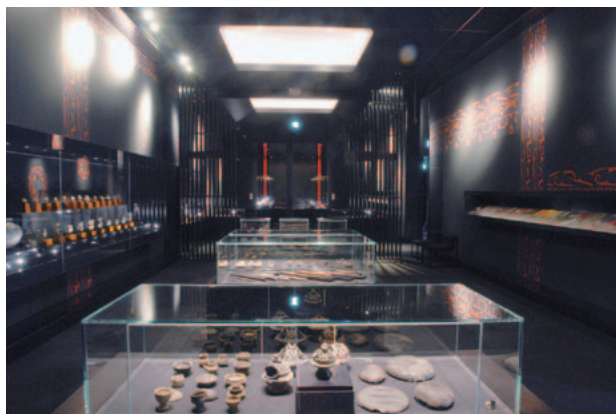
史跡是川石器時代遺跡発掘調査報告書  
(全220ページ・A4版)

## 是川縄文館が開館しました！！

平成23年7月10日(日)、八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館が開館しました。開館を記念し、八戸市のこれまでの遺跡発掘調査を振り返る企画展「八戸の埋蔵文化財」と、東日本の縄文文化の優品を一堂に集めた特別展「縄文至宝展」を開催し、盛会のうちに会期を終えることができました。開館後、市民の皆様をはじめ、国内外から多数の来館者があり、開館1ヵ月で観覧者が1万人に達し、これまで約4万人の来館者にご利用いただいています(平成24年5月現在)。

また、是川縄文館分館となった八戸市縄文学習館も展示リニューアルをして開館しました。泉山兄弟の是川遺跡の発掘や是川遺跡の概要、埋蔵文化財センターの役割について展示していますので、ぜひあわせてご覧ください。

今後も、魅力ある特別展などの行事を企画し、是川縄文館から縄文文化や埋蔵文化財の素晴らしさを発信していきますので、どうぞご期待ください！(市川 健夫)



是川縄文館常設展示



縄文学習館常設展示



# 平成 23 年度八戸市遺跡調査報告会

平成 23 年 11 月 12 日(土)、是川縄文館において、平成 23 年度八戸市遺跡調査報告会を開催しました。遺跡報告会は、八戸市内の発掘調査の成果をいち早くお知らせするため、毎年開催しているものです。

平成 23 年度には、22 件の試掘調査(遺構や遺物の有無を確認する調査)と 15 件の本発掘調査(記録保存のための調査)が行われ、このうち田代遺跡・田面木遺跡・坂中遺跡・八戸城跡の 4 遺跡について報告しました(調査成果は、本誌に掲載)。特に田代遺跡は、24 年度も引き続き調査が行われる予定で、次回の遺跡報告会の目玉となる遺跡です。ご期待ください。

(横山 寛剛)

## 平成 23 年度 第十回八戸市遺跡報告会の概要

開催日時:	平成 23 年 11 月 12 日(土) 午後 2 時から 4 時 ※受付開始:午後 1 時 30 分から 出土品展示室:午後 1 時から 4 時 30 分
場所:	是川縄文館 1 階体験交流室(報告会場) 2 階研修室(出土品展示室)
展示・報告遺跡:	田代遺跡、田面木遺跡、坂中遺跡 八戸城跡、松ヶ崎遺跡(展示のみ)
参加者:	約 100 名



報告会場の体験交流室です。ほぼ満席になりました。



出土品展示会場です。遺物の解説もしています。

## 一年間を振り返って

3.11 未曾有の大地震—とにかくだり着かなければと不安を抱きつつ、ばたばたと八戸に来て早くも一年が経ちました。

是川縄文館の埋蔵文化財グループに配属となり、夏から秋にかけては発掘調査、冬場は報告書作成に携わりました。そして、是川縄文館の開館という記念すべき年であり、その瞬間に立ち会えたことは本当に貴重な経験となりました。

色々と不慣れなことが多く、持ち前の不器用さも相まって失敗だらけの一年でしたが、先輩方や現場の作業員の皆さん、そして調査中に現場を見にいらした市民の皆様の温かい言葉に支えられ、何とか乗り切ることができました。

八戸には、素晴らしい歴史や文化財がたくさんあります。その素晴らしさを、まずは発掘調査を通じて皆様にお伝えすることが出来ればと思っています。(田中 美穂 岩手県出身)



田面木遺跡発掘調査にて(写真撮影をしているのが筆者)

平成 23 年度 八戸市内発掘調査一覧

	遺跡名	調査	調査原因	調査期間	調査面積 (㎡)	主な時代
市内遺跡発掘調査事業	酒美平遺跡第14地点	試掘・本調査	個人住宅建築	H23. 4. 6・15~26	50.6	奈良・集落跡
	櫛引遺跡①	試掘調査	個人住宅増築	H23. 4. 7・15	8.3	縄文・集落跡
	八戸城跡第28地点	試掘調査	集合住宅建築	H23. 4. 9	32	近世・城館跡
	上野遺跡	試掘調査	個人住宅建築	H23. 4. 13	4.9	縄文・集落跡
	田面木遺跡	試掘調査	集合住宅建築	H23. 4. 13	92	平安・集落跡
	山内遺跡	試掘調査	個人住宅建築	H23. 4. 23	16.5	平安・散布地
	石橋遺跡①隣接地	試掘調査	福祉施設建築	H23. 4. 27	94.5	平安・集落跡
	松ヶ崎遺跡第15地点	試掘・本調査	個人住宅建築	H23. 4. 30・6. 8~	28	縄文・集落跡
	中道遺跡	試掘調査	個人住宅建築	H23. 5. 12	14	縄文・散布地
	八戸城跡①	試掘調査	個人住宅建築	H23. 5. 12	6	近世・城館跡
	田面木遺跡第37地点	本調査	長芋作付	H23. 4. 26~6. 24	2,600	平安・集落跡
	菰窪遺跡第1地点	試掘調査	携帯電話鉄塔建設	H23. 5. 14	23	縄文・集落跡
	古玄中寺遺跡	試掘調査	個人住宅建築	H23. 5. 19	5	縄文・散布地
	重地遺跡	試掘調査	個人住宅建築	H23. 5. 21	4.5	縄文・集落跡
	三社遺跡	試掘調査	墓地造成	H23. 5. 24~27	158.5	縄文・散布地
	根城跡下町	試掘調査	個人住宅建築	H23. 6. 3・30	14	中世・城館跡
	櫛引遺跡②・③	試掘調査	道路改良工事	H23. 7. 8・8. 2	37.4	縄文・集落跡
	坂中遺跡第2地点	本調査	土留め・農地造成・牛蒡作付け	H23. 5. 31~6. 4、8. 25~10. 5	270	平安・集落跡
	田面木遺跡第38地点	試掘調査	盛土造成	H23. 6. 16~23	28	平安・集落跡
	八戸城跡②	試掘調査	調剤薬局建設	H23. 5. 27	12	近世・城館跡
	塩入遺跡	試掘調査	店舗建設	H23. 7. 15	12	縄文・集落跡
	大茂館跡隣接地	試掘調査	道路舗装工事	H23. 8. 2	18	中世・城館跡
	館平遺跡①	試掘調査	個人住宅建築	H23. 8. 2・3	45	平安・集落跡
	林ノ前遺跡	試掘調査	自然崩壊	H23. 8. 3~10. 8	131	平安・集落跡
	松館遺跡	試掘調査	携帯電話鉄塔建設	H23. 8. 5	41	縄文・集落跡
	田面木赤坂(1)遺跡	試掘調査	個人住宅建築	H23. 8. 26	8	縄文・散布地
	田代遺跡第1地点	試掘・本調査	農地造成	H23. 8. 30~10. 15	1,704	縄文・集落跡
	蛇ヶ沢遺跡	試掘調査	個人住宅建築	H23. 9. 22	9	縄文・集落跡
	昭平遺跡	試掘調査	個人住宅建築	H23. 10. 7	37	縄文・集落跡
	酒美平遺跡①	試掘調査	個人住宅建築	H23. 10. 27	6	奈良・集落跡
	待ア台遺跡	試掘調査	道路改良工事	H23. 10. 27	98	縄文・散布地
	館平遺跡②	試掘調査	個人住宅建築	H23. 11. 14	6	平安・集落跡
	館平遺跡③	試掘調査	個人住宅建築	H23. 11. 29	31	平安・集落跡
	酒美平遺跡第15地点	試掘調査	個人住宅建築	H23. 12. 22~24	32	奈良・集落跡
	石橋遺跡②	試掘調査	道路改良工事	H24. 1. 12	3	平安・集落跡
	大タルミ遺跡	試掘調査	道路改良工事	H23. 12. 8	11	縄文・散布地
館平遺跡④	試掘調査	個人住宅建築	H24. 3. 28	28	平安・集落跡	
受託事業	八戸城跡第28地点	本調査	集合住宅建築	H23. 6. 30~7. 12	160	近世・城館跡
	田面木遺跡第41地点	確認調査	市立田面木小学校校舎耐震補強工事	H23. 8. 10	18	平安・集落跡
	市子林遺跡第19地点	確認調査	市立大館中学校屋内運動場耐震補強工事	H23. 8. 16	10	奈良・集落跡
	殿見遺跡第4地点	本調査	市立明治中学校屋内運動場耐震補強工事	H23. 8. 20~9. 1	256	平安・古墳
	石橋遺跡	確認調査	下水道整備工事	H23. 8. 30~9. 3	50	平安・集落跡
	重地遺跡	確認調査	下水道整備工事	H23. 9. 6~9. 10	146	縄文・集落跡
	冷水遺跡	確認調査	下水道整備工事	H23. 10. 18~10. 22	30	縄文・散布地
	下松苗場遺跡	確認調査	下水道整備工事	H23. 10. 18	10	縄文・散布地
	田面木遺跡第39地点	本調査	道路改良工事	H23. 10. 25~11. 5	220	平安・集落跡
	田面木遺跡第40地点	試掘調査	道路改良工事	H23. 11. 10~11. 15	80	平安・集落跡

《調査事務局》(平成 23 年度)

八戸市教育委員会  
 教育長 松山 隆豊  
 教育部長 芝 俊光  
 教育部次長 工藤 朗  
 是川縄文館長 小林 和彦  
 副館長 竹洞 一則  
 《埋蔵文化財グループ》  
 埋蔵文化財GL 宇部 則保  
 主幹兼社会教育課主幹 渡 則子  
 主査兼学芸員 杉山 陽亮  
 主査兼学芸員 船場 昌子  
 主事兼学芸員 横山 寛剛  
 主事兼学芸員 田中 美穂  
 《縄文の里整備推進グループ》  
 縄文の里整備推進GL 大野 亨  
 主 幹 久保 伝  
 主 査 磯島 康弘  
 主 査 津久家 崇博  
 主査兼学芸員 小久保 拓也  
 主事兼学芸員 市川 健夫  
 非常勤主事 三浦 賢子  
 非常勤主事 武山 美郷

《平成 23 年度刊行》

八戸市埋蔵文化財調査報告書  
 第135集 史跡是川石器時代遺跡発掘調査報告書  
 第136集 八戸市内遺跡29  
 第137集 田面木遺跡  
 第138集 八戸城跡VII  
 第139集 田面木遺跡第41地点・市子林遺跡第19地点・殿見遺跡第4地点



**掘り day はちのへ 第 15 号**

発行年月日 2012 年 6 月 15 日  
 編集・発行 八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館  
 〒 031 - 0023  
 青森県八戸市大字是川字横山 1  
 TEL 0 1 7 8 ( 3 8 ) 9 5 1 1  
 E - m a i l jomon@city.hachinohe.aomori.jp  
 http://www.korekawa-jomon.jp  
 (是川縄文館ホームページ)

印刷 大東印刷株式会社  
 印刷部数：1,000 部 印刷経費：一部あたり 94.5 円

